

## 2. 教育本部報告

厳しい経済情勢が続く中で、各事業が会員、所属団体、加盟団体の皆様のご協力により、無事終了できました事を感謝申し上げます。教育本部としましては「スキ - 本来の楽しさをたくさんの方々に味わって頂たく」を基本に、各事業がより多くの会員ニ - ズに応えられるよう事業展開、事業運営の効率化、改革に積極的に取り組んで参りました。

以下、終了しましたシーズンの執行につきましてご報告致します。

各事業の充実について

- ・参加者にとって有意義な研修会、また効率的にレベルアップが図れる講習会にする為にシーズン初めの専門委員研修会、行事中の講師トレ - ニング / 夜のミ - ティング等を行い、雪上における技術力向上と改善を図るように努めました。しかしながら講師の種目に対する指導に統一が取れていないなどの指摘がありました。又、行事日程について車山行事 が、春季評議員会提案時から変わり、混乱したとのご指摘を受けました。

今後、専門委員の意識改革、レベルアップのための施策、シーズン前のミーティング、体力向上などオフからの取り組みの中で吸収していく方向が望ましいと思われます。行事日程変更等につきましては各協会への徹底を図り混乱が発生しないようにすることが望まれます。また、SAK・SAC 技術選手権大会と同時開催の特別研究会は急斜面が使えないなどの指摘があり、指導員会と話し合いの中で、SAK主催の事業で、吸収して、運営、改善していく事が確認されています。活性化委員会の答申を受け、車山行事 において女性班を設けましたが、申込み書の記入欄の変更、事前PRが不足したため、賛否両論の意見を頂きました。再度内容を検討し取組む事が重要と考えます。来期に向け、各種委員会の活動を活発化させ、マンネリ化を防ぎたいと考えます。

選手育成と技術選手権大会の運営について

- ・SAJ技術選手権は佐藤拓也、武田真樹選手の2名が予選通過しました。来シーズンは男女決勝進出を目標に強化合宿などを見直しし選手の強化に努めなければなりません。又、県代表選手としての意識改革も重要な課題と考えています。
- ・神奈川県・千葉県スキ - 連盟共催のスキー技術選手権は予選は悪天候、決勝は快晴の中、熱戦が繰り広げられました。当県の参加者は276名から300名と増えており、さらに参加者を増やすと共にスム - スな運営に努める必要があります。
- ・環富士山大会は共催に千葉県を加え、参加者が280名を超える大きな大会となりました。参加者が増えた為、初日の予選のタイムスケジュールが厳しく、開始時間の見直しが必要と思われます。今後、更に他県との技術交流を深め、底辺の拡大と選手育成が重要と思われます。「なごやかさ」「さわやかさ」のある事業も大切と考え、それにふさわしい事業を指導員会とタイアップし検討していく必要も感じています。

北海道行事について

- ・雪不足で開催が危ぶまれる中、現地との情報を密にし行事を決行しました。全国的に雪がない中で十分な滑走ができ、参加者には満足して頂いたものと考えております。また、新たな行事であるプライズテストに多くの受験者があり、検定会が開催されました。今後、アンケートを分析し、更にその声を生かきめ細かい対応が重要であります。

ハンディキャップスキー講習会及びレベルアップ講習会

- ・ハンディキャップスキーの講習会、級別テストはHC委員会が中心となり実施しました。今後もHC委員会の行事運営を後押し、連携を図る体制が良いと思われます。
- ・レベルアップ講習会は参加者が少ない結果となりましたが、将来とも県下のスキー普及拡大に寄与すると思われます。級別テストの開催など盛り込み参加者を増やす努力望まれます。

教育本部専門委員の活動について

- ・競技本部と連携を取りながら各種大会に派遣しました。経験を積ませ、教育本部行事の大会運営等で生かせるようにして行くことが、継続課題と思われます。